

特集「BIPROGY グループの技術戦略」の発行に寄せて

馬 場 定 行

BIPROGY グループは、これまでデジタル技術を駆使して企業や社会のビジネスを支える重要なシステムやサービスを構築・運用してきた。その活動を通じて、ビジネスプロセスを支えるミッションクリティカルなシステム開発経験と実績、プロジェクト管理の知識と言語化された開発方法論、そして徹底した顧客・業界理解という当社の強みを活かしながら、継続的に強化・蓄積を行ってきた。

近年、企業のデジタル技術に対する期待は、安全で安心なシステムを用いて顧客に高品質な製品やサービスを提供し、効率的な業務運営に資することから、イノベーション創出、データの分析と活用、従業員の働き方改革などへと広がっている。また、多くの企業が社会課題の解決に取り組む中で、デジタル技術を積極的に活用している。

BIPROGY グループは、最新デジタル技術により、これまでのアセットをさらに強化し、デジタルの力とビジネスエコシステムを活用して企業や社会の課題解決の仕組みづくりを進めてきた。また、変化し続ける課題に応える技術も進化し続けているため、技術ライフサイクル全体を対象に技術ポートフォリオを再構築し、取り組むべき技術分野を技術戦略として定めている。

技術戦略では、これまでの企業のビジネスを支えるシステムの開発・運用のライフサイクルを強化・高度化するために、AIなどのデジタル技術を活用しながら標準化・自動化・効率化を推進する「開発プロセス変革」、最新の基盤技術・デジタル技術でマネージドサービスを強化・高度化する「マネージドサービスを支える技術強化」に取り組んでいる。また、既に取り組みが始まっている企業の提供価値向上と企業や社会の課題解決に向けて、最新デジタル技術でイノベーションを創出するため、データ活用・AI・デザインにより顧客体験を高度化する「顧客 DX パートナーに資する利用技術・適用技術の高度化」、汎用 AI をそれぞれの業務に寄り添い高度化することで企業や社会の課題解決を図る「さまざまな分野に応用可能な AI による顧客・社会課題解決手段の獲得」にも取り組んでいる。さらに、今後、生活者・企業・社会の活動にデジタル技術が当たり前のように浸透したデジタル社会において、それを支える web3、デジタルツイン、IOWNなどの推進に向けて「次世代デジタル社会インフラ実装技術の発掘と獲得」も進めている。そして、将来、企業や社会に大きな影響を与える可能性のある技術の実用化に向けて「量子コンピューティング等の先端技術の発掘と獲得」も行っている。

技報 162 号と 163 号の 2 号に渡り、これまでの企業のビジネスを強化・高度化し、企業価値の向上と企業や社会の課題解決、そして将来のデジタル社会に向けて、最新のデジタル技術を活用する取り組みを紹介する。162 号では、さまざまな分野で適用が進んでいる AI に関する BIPROGY グループの具体的な取り組みについて、163 号では、企業 DX を推進するデータ分析やデザイン、今後のデジタル社会を支えるインフラ技術について紹介する。

本特集で紹介する活動が、企業価値の向上、企業や社会の課題を解決しようとする企業や団体の方々の参考になるだけでなく、デジタル技術を駆使して企業や社会の課題を解決したいと考えているパートナーの方々が当社グループと活動を共にするきっかけとなれば幸いである。

(BIPROGY 執行役員)